

中国国家図書館の文化広報活動紹介 —「中国の記憶」プロジェクトの文献資源普及を例として—

中国国家図書館 社会教育部主任
湯 更生

一、「中国の記憶」プロジェクト概要

文献情報資源の中核として、図書館は文化の広報という生来の役割を担ってきました。中国国家図書館は一貫して文化広報業務を重視しており、またこの分野について絶えず模索と改革を行っています。「中国の記憶」プロジェクトは、国家図書館が 2011 年に企画を始め、2012 年に正式に始動した文献資源の構築と普及のプロジェクトです。当該プロジェクトは、中国の近現代における重大歴史事件と、重要な歴史人物をテーマとして、図書館の既蔵文献から資料を集め整理し、また口述史料、映像資料及び関連写真、日記、書簡、実物等の新たな文献を採集或いは収集するもので、プロジェクトのウェブサイトと視聴覚閲覧室で、利用者に無料で閲覧を提供し、かつ展示会、図書、講座、研修、記録映像等の方法で文献資源の開発と普及を行ってきました。

2012 年から現在まで、「中国の記憶」プロジェクトは 14 のテーマで文献資源の構築を進めてきました。これらには「積善堂手巻¹」、「東北抗聯²」、「伝統的な年画³」、「現代の音楽家」、「汶川^{ぶんせん}大地震⁴ボランティア」、「芸術と科学」、「大漆髹飾⁵」、「シルク刺繍」や「私たちの文字」等が含まれます。これらのテーマについて、私たちは関連する既蔵文献の所蔵目録を整理いたしました。また、元兵士、科学者、芸術家、工芸作家、ボランティア等、多くの分野における重要人物あるいは歴史的事件の体験者の口述史料を収集しています。また、無形文化遺産や、歴史事件の発生地等の映像資料の撮影も行っています。さらに古い写真、日記の手稿、伝統的な芸術作品、元兵士の手印、非正式出版物⁶等の関連文献も収集しました。これらを統合した文献資源の価値を、いかに正しく体現していくかということが、「中国の記憶」プロジェクト資源普及の主な任務であり、図書館の文化広報活動の重要な内容でもあります。

二、資源普及の方法

¹ 2011 年 12 月に国家図書館に寄贈された、渤海の孫家に伝わる明代永楽帝、宣徳帝、洪熙帝時代の朝廷の重臣、学者、書法名家など 43 人の題賛の墨跡を集めた絹本の卷子本。《明渤海孙氏积善堂题賛手巻》捐贈国家图书馆 http://www.nlc.gov.cn/dsb_zx/gtxw/201201/t20120116_58498.htm

² 中国東北地方の抗日武装組織。前身は 1933 年 5 月に成立した東北人民革命軍。1936 年 2 月東北抗日聯軍と改称。(中国記憶> 東北抗日聯軍專題 http://www.nlc.gov.cn/dsb_zt/xzzt/dbkrlj/kljj/kljs/)
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%9B%E5%B7%9D%E5%A4%A7%E5%9C%B0%E9%9C%87>

³ 旧正月に飾る、縁起物やめでたい図柄を描いた絵。

⁴ 四川大地震ともいう。2008 年 5 月 12 日に四川省アバ・チベット族チャン族自治州汶川県で発生した地震。

⁵ 大漆は天然の漆。髹飾は漆を用いた装飾。

⁶ 市場に流通しない内部出版物などを指す、灰色文献に近い概念。

「中国の記憶」プロジェクトの文献資源の普及は、文献と利用者の上に橋をかける過程です。私たちがこれらの資源を採集、或いは収集するのは、それらを図書館に封じ込めるためではなく、資源が持つ情報を、さらに多くの人々へ知らせ、また活用してもらうためです。従って、「中国の記憶」プロジェクトの発展理念において、資源の普及と構築は、ともに重要な位置を占めています。私たちが多くの方法を試みることで、これらの貴重な文献資源を公衆に広めてきました。

(一) オンライン公開

ネットワークは便利で早く、直接的で、広範な普及ルートです。国家図書館のウェブサイトでは、「中国の記憶」プロジェクトとして「東北抗聯」、「伝統的な年画」、「現代の音楽家」、「大漆髻飾」や「シルク刺繍」の 5 つのテーマで文献資源を公開しています。オンラインで公開しているそれぞれのテーマの文献資源には、一般に口述史料、映像資料、写真、既蔵文献の所蔵目録、オンライン展示と、画像や文章による関連知識の紹介が含まれています。ウェブサイトで「見る」をクリックすると、編集、加工された口述史料や映像資料を閲覧することができ、オンライン展示や、その他の解説付きの歴史写真、画像等を閲覧できます。さらには文献目録を参考にして深く理解を進めることもできます。

(二) 動画作品

「中国の記憶」プロジェクトが収集する口述史料と映像資料は、すべて標準的な手法と先進的な設備を使用して撮影を行っており、蓄積された動画資源は、そのまま広報映像、記録映像、ニュース映像等の動画作品の素材として用いることができます。現在までに、これらの動画資源をもとにして、無形文化遺産プロジェクトの記録映像 18 作、無形文化遺産(大漆髻飾、シルク刺繍、無形文化遺産保護)の広報映像 3 作、ニュース映像 2 作が制作されています。

(三) 展示会

2013 年には「中国の記憶」プロジェクト・シリーズ展」を三度開催しました。年画の記憶、漆の記憶、シルクの記憶です。これらの展示会では、図や文字入りのパネル展示のほか、来場者は豊富で多様な実物の展示品を見ることができました。展示品には、無形文化遺産の芸術作品、原材料、工具等が含まれ、さらに「漆の記憶」展示会場では、本物の漆の苗木を見ることができました。図書館が開催する展示会においては、伝統的な文献は欠かすことのできないものであり、多くの古典籍や現代の文献から、無形文化遺産プロジェクトの淵源や伝承経路を知ることができます。展示会場の多くのエリアで、来場者は、私たちが制作した、展示テーマに関連する動画を鑑賞することができます。それらには広報映像、無形文化遺産プロジェクトの記録映像、無形文化遺産伝承者の口述史等が含まれます。このほか、国家級の無形文化遺産伝承者を展示会場へ招き、来場者へ向けて、これら驚くべき芸術作品が、どのように誕生したかを実演してもらいました。2014 年 12 月には、「中国の記憶」プロジェクト・シリーズ展の第四回「私たちの文字」特別展を開催します。この時、来場者は中国の各民族の文字に関する様々な文化現象、即ち伝説と崇拜、礼儀と習俗、書写と伝播等を見ることができます。

(四) 利用者の現場交流

生糸で作られた琴の弦からどのようにして異なる音色が出るのかを聴く、異なる材質の絹織物がそれぞれどのような手触りかを見分ける、自分で年画を印刷し、記念品として家に持ち帰る。これらは皆、展示スペースを利用した現場交流の企画です。このような交流は、人と人の距離感をなくすことができ、肌で感じることで、文化広報の対象へ、より直感的で深い印象を残すことができます。

(五)利用者体験型イベント

現場交流に比べ、参加感を作り出す構想を更に一步進めたものが体験型イベントです。このようなイベントは、参加者がその場に身を置き、あらゆる方向から関連知識を理解する機会を提供するものです。例えば「大漆髹飾」の資源普及イベントでは、参加者が、無形文化遺産堆漆⁷芸術の部の国家級伝承者である文乾剛氏のアトリエへ行き、堆漆の一つ一つの工程を体験する企画を実施しました。また「シルク刺繍」の資源普及イベントでは、老舗のシルクショップ「瑞蚨祥」へ行き、様々な種類の織物に触れました。その内容の多くは、文献資源構築の過程で、過去にも映像等の手段を用いて記録を行っていましたが、このような体験型イベントで得られる感動は、動画や展示を見るのとは比べ物になりません。

(六)図書の出版

図書は携帯と伝播に便利な、知識の運び手であるため、その編集と出版は、資源の普及にとって有効な手段となります。「中国の記憶」プロジェクトの図書はシリーズ化し、「中国の記憶叢書」と呼ばれています。これらは皆、すでに構築を終えたテーマ別の文献資源を基礎素材としています。目下、三冊まで出版済みで、うち二冊は知識普及型の読み物で、『漆の記憶』と『シルクの記憶』です。もう一冊は、学術専門書の『大漆髹飾伝承者口述史』です。第四冊目は、先ほど述べた「私たちの文字」特集に関する知識普及型の読み物で、間もなく開催する展示会の際に出版する予定です。

(七)公開講座

展示会の会期中には、展示のテーマに関連する講座を同時に開催しました。これも、多くの普及方法を有機的に組み合わせ、連動させることにより、相乗効果を得るためです。昨年の三回の展示会期間中は、関連分野の専門家を講師に招き、テーマに応じた講座を 15 回実施しました。様々な来場者の要望に合わせるため、講座には、講義しながら実演する活発な普及型講座もあれば、真面目な理論型の講座もあります。展示会場で講座の予告を見て講座を聞きに来た来場者も、講座を聞き終えて展示会の情報を知った後に展示を見に来た来場者も大勢いました。さらには同時に図書や動画を見たり、現場で交流することもでき、多くの方法を組み合わせることにより、公衆へ立体的な情報ソースを提供することができました。

(八)メディア広報

メディアの助けを借り、特定テーマの資源の広報・普及を行うことには、受け手の間口が広く、効率もよいという利点があります。各テーマ資源の公開あるいは展示会等のイベントは、すべてテレビ、新聞等のメディアでニュース報道を行い、同時にミニブログ、インスタントメッセージ、「手のひら国家図書館」携帯ポータル等の新たなメ

⁷ 色の異なる漆を塗り重ねて模様を彫り出す漆器彫絵。

ディアを通じ、さらに広い範囲での広報を行いました。このほか、文化関連の専門紙や刊行物を通じ、深化したテーマ報道も行いました。

三、典型的な例―「大漆髹飾」

以下に「大漆髹飾」、このテーマを例として具体的な紹介を行います。

大漆は天然漆とも言い、約七千年前に中国人によって初めて生産、生活に応用された天然の塗料であり、防水、防腐、防虫、接着、硬化等の作用があります。日本においても、漆器は長い歴史を持ち、広い範囲での応用がなされていることを存じています。今日では、中国人の日常生活における漆の地位は、コストの廉価な化学漆へ徐々に取って代われ、「大漆髹飾」も保護の必要のある無形文化遺産となりました。中国ですでに公表済みの、第四期までの国家級無形文化遺産リストのうち、「大漆髹飾」に関連するものが合計 20 項目あります。「中国の記憶」プロジェクトの「大漆髹飾」では、第三期までの 19 項目の国家級無形文化遺産の伝承者に関する口述を収集し、うち 15 項目については映像資料を撮影いたしました。私たちはこのテーマで構築した文献資源の内容と特色に基づいて、多様な方法で文献資源の広報・普及を行いました。

毎年 6 月の第二土曜日は、中国の「文化遺産の日」です。この日になると、全国各地で豊富な内容かつ多彩な形式の記念および宣伝イベントが行われ、包括的な文化遺産の伝承と保護を推進しています。2013 年の「文化遺産の日」では、「中国の記憶」プロジェクトのうち「大漆髹飾」をテーマとする文献資源を、国家図書館ウェブサイトと携帯ポータルを通じて社会へ向けて公開し、同時に特別展「漆の記憶」を国家図書館にて開催、図書『漆の中の記憶』も同時出版、販売しました。

展示会場や国家図書館ホームページへの来場者は、『大漆髹飾』の広報映像や、無形文化遺産に関する記録映像を見ることができました。また、無形文化遺産の伝承者の口述動画を見ることができました。展示会の期間中、彫漆分野の国家級伝承者と、清華大学の漆工芸の専門家がそれぞれ講座を開講しました。『中国文化報』は「大漆髹飾」特集を発刊し、掘り下げた報道を行いました。

一年後、19 項目の大漆髹飾の国家級無形文化遺産伝承者の口述史料の整理、編集を経て、40 万字に及ぶ学術専門書『大漆髹飾伝承者口述史』を出版しました。

四、結語

「中国の記憶」プロジェクトの文献資源の普及は、統合された図書館文献資源を、多様な手法を用いて広報・普及するプロセスであり、様々な利用者の多元的な知識、感覚、感情面での需要を満たすとともに、図書館が進める多角的な資源提示の有益な試みでもあります。図書館は国民の読書活動の案内人として、「中国の記憶」プロジェクトの文献資源の普及を通じて、横方向には豊富なチャンネル、縦方向には巧みな案内で、利用者へ立体的な閲覧方式とあらゆる方面からの文化体験をもたらします。